



『広島島支部結成』

満一年を迎えて
当支部も平成五年七月十五日に結成以来
ようやく満二年を迎えようとしています。
小人数でのスタートに心配はありましたが、
会員皆様のご協力と関係各位のご援助を
受けようやく軌道に乗って参りました。

しかし、二年目の社友会は決して順風満
帆ではありませんでした。結成当時の幹部
の転出、そして支部長が入院、手術される
など支部組織の弱体化、社友会室の直直に
も人を欠く有り様でした、何とか危機を乗
り越え、紅葉会メンバーとの交流の機会も
多くなり、加えて有力会員の加入によって、
社友会室へ訪れる人も増え話題も豊富になっ
て来ました。その間、幹事会も十七回を数
え、社内報『窓』『健保だより』その他の
刊行物の配布、発送等を行っておりますが、
時には到着が遅いとお叱りの電話をいただ
いた事もありました。そしていよいよ、
第二回支部総会開催の準備途上、去る四月
二十八日、本部総会に出席された石井支部
長が、広島への帰途、大阪で緊急入院され
ました。

五月十四日現在も、大阪市立総合医療セン
ターに入院されており、面会謝絶が続いて
おります。この様な中で総会開催につい
て幹事会で協議し、関係部門とも相談の上、
支部長の一日も早いご平癒を祈りつつ開催
することに致しました。

会報『ひびき』も第三号発行以来途絶え
ておりましたが、ここに第四号をお届け致
します。

前途多難な社友会広島支部ではあります
が、会員の皆様並びに、会社を始め関係各
位のご支援、ご協力をお願い致します。

『近場のレジャー情報』

島の巻

今年のG、Wも終わりました、今年のキ
ーワードは・・・『安・近・短』でした。
だから、費用をあまり掛けずに近場で日帰
りか、一泊程度のレジャーを楽しまれた方
が、多かったのではないのでしょうか？

社友会の皆さんは、いかが過ごされました
か、私は、図書館で本を借りて、これを読
んで過ごしました。小旅行をするならば
G、Wを外したほうが、人出が少なく落ち
着くからです。

今日は、蒲刈町の見所をご紹介します。
蒲刈町は瀬戸内海に位置する芸予諸島の一
つです。
島は、上蒲刈島と下蒲刈島とわかれて居ま
す。

それでは、上蒲刈島からご案内致します。
珍しいイカ漁に『コーブ』
毎年、五、六月にかけて行われる、観光イカ
網、船の上からイカ漁を見学し、とれたイカ
は、民宿横でバーベキューや海賊汁、イカご
飯などにして豪快に食べる。九月からは海賊
タコ漁が行われる。

黒鼻岬の自然海浜に広がるマリソリゾート
松や杉などの、自然木の温もりを生かした
宿泊研修施設・輝きの館、約一、〇〇〇米に
わたって続く自然海浜を利用した海水浴場、
フィールドアスレチック、天体観測館などこ
こでは、一日中、退屈している暇なんてない
やすらぎの館

海を眺めながら温泉リゾート
県民の浜温泉を利用した健康センター。
温泉のほかサウナ、薬湯、ジェットバスなど
バラエティ豊かなお風呂と快適なトレーニン
グルームで健康づくり、和室、洋室と休憩室
も用意されている。県民の森のとなり

次は下蒲刈島には蒲刈大橋を渡って行きます
ここは、江戸時代の航路の要衝として公式の

海駅が置かれた町、町役場周辺には当時の史
跡が数多く残って居ます、海水浴、新鮮な海
の幸など楽しみは豊富です。

欄島閣美術館

総検作りの豪華な美術館
昔、島一面に蘭の花が咲いていた事から蘭島
と、呼ばれていた下蒲刈島。
その名にちなんだ美術館には、瀬戸内海の自
然をテーマに、小林和作の作品を多数展示、
総検作りの建築も見応えたっぷり。

三ノ瀬港から徒歩三分 入観料五〇〇円
御馳走二番館
朝鮮通信使資料館

江戸時代、下蒲刈は藩と朝鮮通信使との玄関
口だった、なかでも接待は『安芸蒲刈御馳走
一番』といわしめたほど、絵画資料や料理を
復元している。三ノ瀬港から徒歩一分

ペンショントウモロウハヴス
とれたてのシーフード料理を堪能
牛ヶ首東側の海辺に建ち、安芸灘を一望でき
る。活のいい瀬戸内の海の幸を使った料理で
人気、江戸時代の朝鮮通信使が供された料理
をミニコースで再現した『安芸蒲刈御馳走一
番』(一万円)は予約が必要、梶ヶ浜ビーチ
に近くリゾートの拠点に便利。
二食付き一万円
その他の見所

福島雁木 (下蒲刈町)
観音平遊歩道 (下蒲刈町)
恋ヶ浜 (蒲刈町)
桂の滝 (蒲刈町)

※交通アクセスR一八五の仁方港よりフェリ
ーにて

今 游人

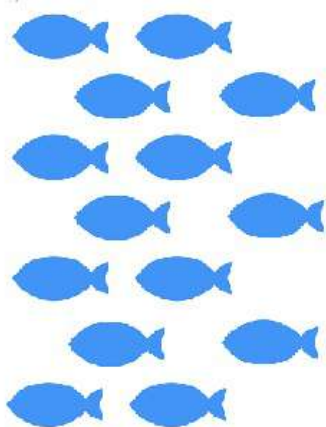


〔釣〕

釣り坊主日記

四月から五月にかけて、釣りの方は全く
は不調で、お話しにならない。釣り人口も急
増し、それはばかりかマナーの悪さが目に余
る。釣り場には糸の切れたもの、ジュース
ビールの空き缶が放置されていて、気分良
くを釣りもする気にはなれない。自分で出
したゴミは自分で処理をして帰りたいもの
である。海を見ても糸切れが多く時には切
れ糸とオモリを釣り上げることもある。投
げ釣りは初心者にとっては比較的簡単にで
きるのも最も多い釣り方である。それだけ
に海底には多くの切れ糸も存在する、この
ように釣り場が荒らされては魚も近寄らな
くなってきている。時間のかかることで
あるが釣り場は自分で根気よく探すのがコ
ツ、比較的マナーの良いのは防波堤での釣
り。人さす釣り場は宮島より西方又は安浦
より南方が良い、倉橋島は場所が限定され
る、この範囲で自分の最良の釣り場を探す
ことである。(近場情報より)

釣り坊主 E



『六〇日間の入院生活』

松岡 良明

入院までの症状、お正月以降は何故か晩酌を欲しいとは思わないし、食欲も進まない『うどん』や『雑炊』を好んで食べた。丁度、この時期に風邪が流行していたので風邪の、せいだと思ひ込み町医者に診てもらったら、『今年の風邪の特徴だ』と言っ

て薬をくれた、しかし熱もないので、おかしいと思ひながら、もらった薬を飲んで、二月を目の前にした一月二十八日(土)の夕食後に突然、目の前が真っ暗になった。妻に『今夜はどうもおかしい』と訴えた、妻は僕の様子を見て直ぐに病院に(国立療養所広島病院)に電話で僕の様子を話して

いる。電話が済むと直ぐに病院に行く準備をしたが、僕は一人で立つことが出来ない、そして、子供(息子)の運転で病院まで運んで貰った、当直の医師に、その症状を簡単に報告して診察を、直ぐに血圧を測定したが異常に高く医師は、看護婦に入院の準備を指示していた、僕はただ呆然としていたが、やがて車椅子を、用意されこれに乗るように促され病室に運ばれた、そして二十四時間の点滴注射をされた、それから以後は、ただ眠るばかりであった。

×月×日 ふと目を覚ますと誰かのお見舞いを受けているが、頭がボーとしてハッキリしない失礼をした。

×月×日 入院五日目、少しはハッキリして来たが、医師、看護婦は頭は痛く無いか・手足はしびれないか、と問いかける、今日までに、早速お見舞いに来て戴いたが、余り記憶無い失礼をしていた。

×月×日 これまでに、心電図・胸部のX線・血液検査・頭部のCTスキャンの検査を受けた

が、異常は認められない(血圧上昇の原因) ×月×日 入院一三日目今日はMRIでの検査を受けた(MRIとは磁器共鳴コンピュータ断層撮影による画像診断)CTよりも進歩した機械で、より鮮明に患部を診ることが出来る。

×月×日 午後より部屋の移動八号室へ変わった、主治医の西田医師が便所は徒歩で行くように、指示がでる、今までは尿瓶にとついた、部屋が変わったせいかわ付が悪い。

×月×日 入院二〇日目、毎日薬を飲み、静にしているのに、血圧がさがらない、何が原因か食事は、おいしくいただいて居る。昨日、俳句会だよりが到着、見るだけだった。

×月×日 社友会の山田さん、新田さんが『窓』と有志のお見舞いをもって見えた、短時間ではあったが、何故か懐かしく感じた。

×月×日 今朝のニュースを見ると、東京は雪が降っていた今日は二月二十六日であった、TV番組は、どのチャンネルもよく似た番組で、面白くない。

×月×日 今日はX線と心電図の検査、前回の検査では、異常なしだったのに、阿久根さん目出度く退院、僕も早く退院したい。

×月×日 主治医から、入浴の許可がでた一カ月ぶりに、入浴した、新田さんに確定申告の手続きを依頼する。

×月×日 昨日予約をしていた、病院内の散髪屋にて髪を少し切って貰った散髪はやや、不安ではあったが余りにも、長く伸びていたので、

×月×日 主治医と外科医が来て外科医の診察、問診を受けた、今までの検査では高血圧の原因が、不明で今度は、外科医による検査をするらしい、聞くところによると、腹部のエコー、やMRI、血管造影である。

×月×日 腹部エコーの検査は、昨日行ったが結果は特に異常は認められない、残るはMRIと血管造影である。

×月×日 三月二〇日テレビを見てみると臨時ニュースが入った、東京の地下鉄で何か異臭がして、多くの乗客が倒れたようである、どの局もこれを報じている、当分はこのニュースが続くそう。

×月×日 今日のは後のサリン事件(オウム真理教)の疑惑になる。

×月×日 今日MRIの検査である、午後三時よりである、そのため朝食後は絶食する、検査の時はいつも、絶食である、スッカリ馴れた。

×月×日 MRIの検査での結果は、異常はなかったようである、一体何だろうか、原因が解らないまま、今日まで、不安がつる。

×月×日 いよいよ明日は、血管造影検査をする。検査にあたって、看護婦がその説明に来たが簡単に、血管に薬(液体)を注入しながらX線で診るといふものである、次に来た看護婦は、下腹部のヘアーを剃り落としに来たので、検査について更に詳しく説明を求めたら右足の付け根の、静脈より注入すると言う、夕刻に別の看護婦が来て、明日は絶食する事、T字帯、浴衣の用意を告た何か手術でもするような準備である。

×月×日 当日が来た、検査一時間前に点滴、これ

を、左足の甲に打たれた、これはとてつもない太い、針でとても痛かった、そして寝台車に乗せられ検査室へ、検査医は手術するようにはゴム手袋、マスク、頭にはキャップをつけている、僕は、検査台に移され下腹部以外はビニールシートの様なものをかぶせられた。そして、局部麻酔をして、静脈から液体を注入し、X線で流通を確認するのである、凡そ一時間で終わったが、この後が大変である、注入口が、塞がるまで二十四時間、安静しなければならぬので、足の付け根をテープで固定された。

×月×日 昨夜は身体が自由にならず、苦しかったが、検査の結果が待ちどろしい、二十四時間と言うと、今日一日こんな状態かと、思っ

ていら、九時を少し過ぎた頃に外科医が診察に見えて、傷口を診て、固定テープを外してくれた。

×月×日 入院五十八日目、主治医が、昨日の検査結果を伝えた、やや血液の流れが悪いが特に手術など処置する事はない、今後は通院と薬の飲用を続けて下さい。

×月×日 三月三〇日いよいよ退院の日が来た、生憎、雨が降っているが、『雨降って地固まる』自分に言い聞かせて納得、あぁ六〇日ぶりに、我が家に、この度は、皆さんに本当に、ご心配をお掛けした、そしてお見舞いの言葉有り難うございました。

恒編 佳米 俊 俊 記 礼 ☆ひびきに『ひびき』第四号をお届けします、あれこれの事情で発行が途切れま

た。 会員の方々の寄稿をお待ちしております。 奮って、投稿下さい。 ☆送り先 通信オーディオ事業本部 総務部 郵付

シャープ社友会広島支部宛て